『百人一首』中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力（二十八）

心あてに折らばや折らむ初霜の　おきまどはせる白菊のはな

凡河内躬恒

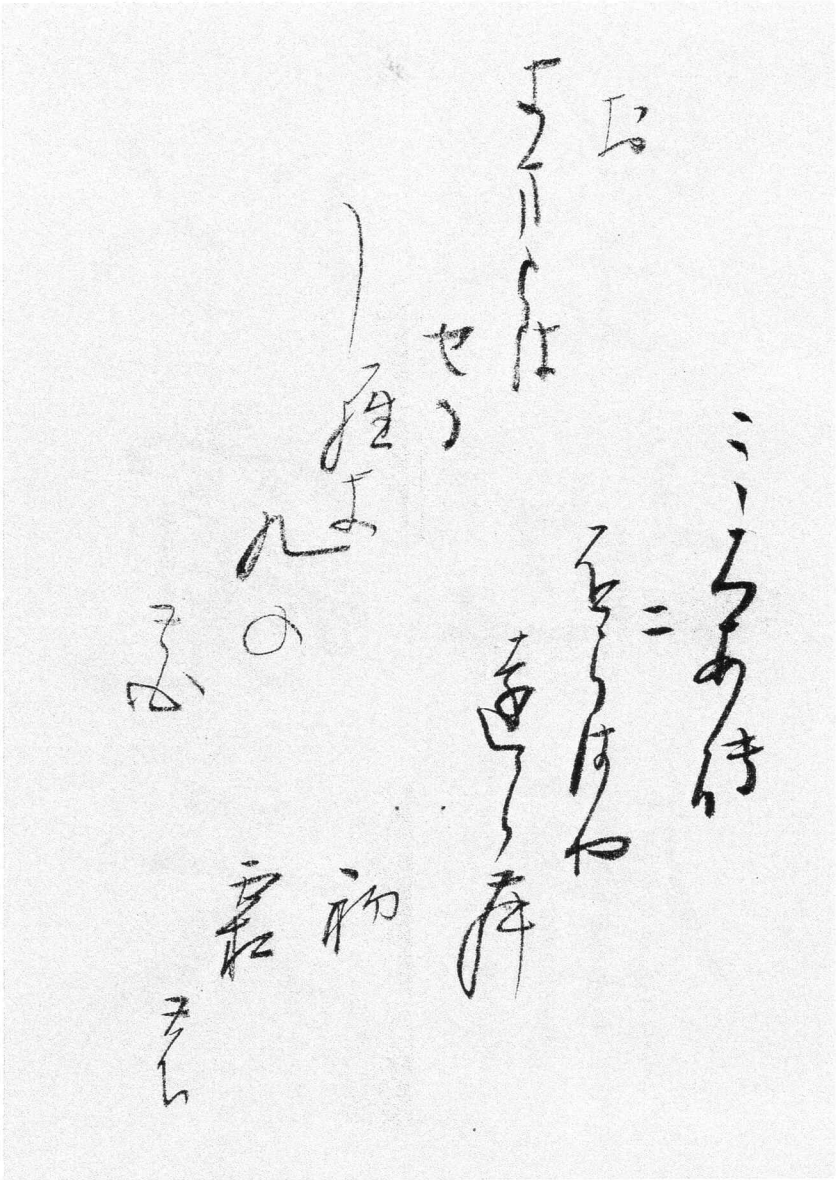
〈歌意〉
あて推量で折るならば折ってみようか。初霜が一面に真っ白に降って、どれが花やら霜やらわからなくなっている白菊の花を。
この歌は『古今集』（秋・二七七番）に出ています。

（凡河内躬恒）
生没年不詳。『古今和歌集』撰者の一人。

〈よみ〉

こころあ傳　①
二
をらはや
遠ら舞
初
霜
農の

②
お
支万とは
せる
し羅支
九の
花



中村素堂先生の書　畫間欽堂先生提供

前回より畫間欽堂先生が習われた「百人一首」の折手本を使用しています。上の句を下段に、下の句を上段に「雁の乱れ」の書式で書かれています。（青藍）